

## 6-2 小学校 2年生生活科 指導事例 「大すき わたしのまち」

(地域と生活、  
公共物や公共施設の利用)

### 【単元目標】

自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

### 【目指す子どもの姿】

公共物や公共施設を利用する中で、公共の意識を高めている姿

### 1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 16 時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p><b>前のまちたんけんを思い出す①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちに関する話題から、春に行ったまちたんけんで見つけたものや出会った人のことを思い出す。</li> </ul>	
<p><b>もう一度行ってみたいところ、会いたい人を考える①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所やその人たちが今、どんな様子か、どんなことをしているのかを想起し、まちたんけんへの気持ちをもつ。</li> <li>・みんなが共通に行く場所として地域の図書館を紹介する</li> <li>・まちたんけんの計画を立てる。</li> </ul>	<p><b>ポイント1</b></p> <p>課題に気付く</p>
<p><b>まちたんけんに行こう1～図書館ってどんなところ?⑤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の図書館を訪問し、館内の様子やそこで働く人たちの様子を観察したり、話を聞いたりする。</li> <li>・気付いたことを共有し、ワークシートにまとめる。</li> <li>・次のまちたんけんの計画を立てる(グループごと)。</li> </ul>	<p><b>ポイント2</b></p> <p>多面的・多角的に考える</p>
<p><b>まちたんけんに行こう2～私のお気に入りの場所へ④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの場所にグループで出かけ、そこの様子や、そこにいる人、働く人たちの様子を観察する。</li> <li>・気付いたことをワークシートにまとめる。</li> </ul>	
<p><b>「大すき わたしのまち」発表会に向けて③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけたまちの秘密を友だちと共有する。</li> <li>・まちの秘密を知り、まちのために何か自分にもできるかもしれないという気持ちをもつ。</li> </ul>	
<p><b>「大すき わたしのまち」発表会②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のお気に入りの場所を発表し、友だちのお気に入りの場所のよさを知る。</li> <li>・発表を振り返り、これからもまちと関わっていこうとする気持ちをもつ。</li> </ul>	

## 2 政治的教養を育むためのポイント

### ポイント1

「まちたんけん」にあたっては、地域の人々や場所に親しみや愛着をもてることを目指していきましょう。

生活科の内容（3）「地域と生活」では、児童の生活の場の広がり背景に、地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに心を寄せ、自分の生活との関わりを更に広げたり深めたりすることが期待されています。

指導事例は、春に探検したことを思い出しながら、再びその場所や人の所に行ってみたいという児童の願いから単元が始まっています。年間の中でも、単元の中でも繰り返し地域に出て、そして効果的に振り返ることで、気付きが増え、それが児童のまちへの親しみや愛着へと高まっています。

この地域の人々や場所への親しみや愛着は、これまで以上に地域のことに対して、「もっと知りたい」「もっと親しくなりたい」「自分にもできることをしてみたい」という思いや願いを生むことでしょう。このことは小学校低学年において育むべき政治的教養として大切なことです。

### ポイント2

地域の公共施設と関わることで、みんなで使うものは、自分にとっても、相手にとっても気持ちよく利用することに気付くようにしましょう。

この指導事例では内容（3）に内容（4）の公共物や公共施設の利用を組み合わせられています。社会において、**他者と共生していくことは重要なこと**であり、自分以外の人のことを考えて行動することは政治的教養を育むうえで大切です。本指導事例では図書館を取り上げていますが、その他にも以下のような公共施設や公共物が考えられます。

身近な公共施設：公園、児童館、公民館、博物館、美術館、駅など

身近な公共物：乗り物、公園のベンチや遊具、トイレ、ごみ箱、図書館や児童館の本など

上記のような公共施設や公共物を意識するとともに、これらのものを支えている人々にも目を向け、その人と関わることにより、「みんなのものを大切にしよう」という児童の気持ちは高まっていくことでしょう。

そして、このことが「みんなで使うものは、自分にとっても、相手にとっても気持ちよく利用して生活するものである」という公共の意識の高まりにつながっていきます。

